

II

現状課題の整理

- 1 地域特性の整理
- 2 公共交通特性の整理
- 3 移動実態・ニーズの整理
- 4 公共交通を取り巻く社会情勢の変化
- 5 未来に向けて対応すべき課題

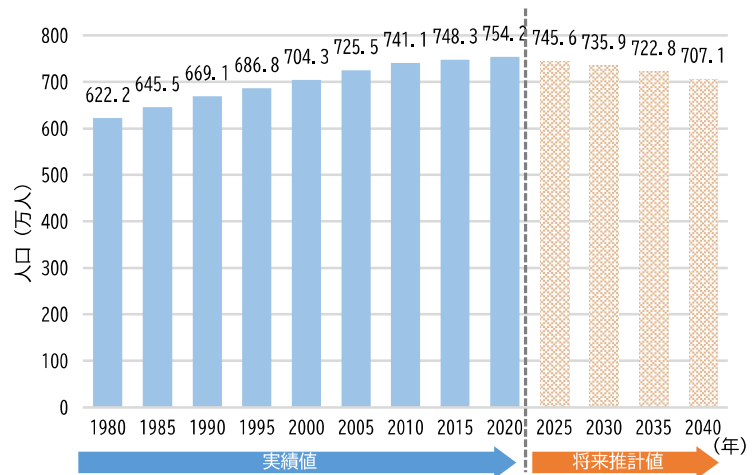
1 地域特性の整理

(1) 人口推移と人口分布

① 県全体での人口推移

- 愛知県全体の人口は、1980年以降堅調に増加し、2020年時点で754.2万人となっています。
- 人口メッシュデータ（概ね500m四方）を見ると、名古屋市内及び周辺市町村に人口が集中しており、とくに鉄道駅周辺の集中が目立ちます。
- 一方で、県北東部の鉄道駅から離れた山間部については、人口分布がまばらとなっています。

■愛知県の人口の推移と将来予測値

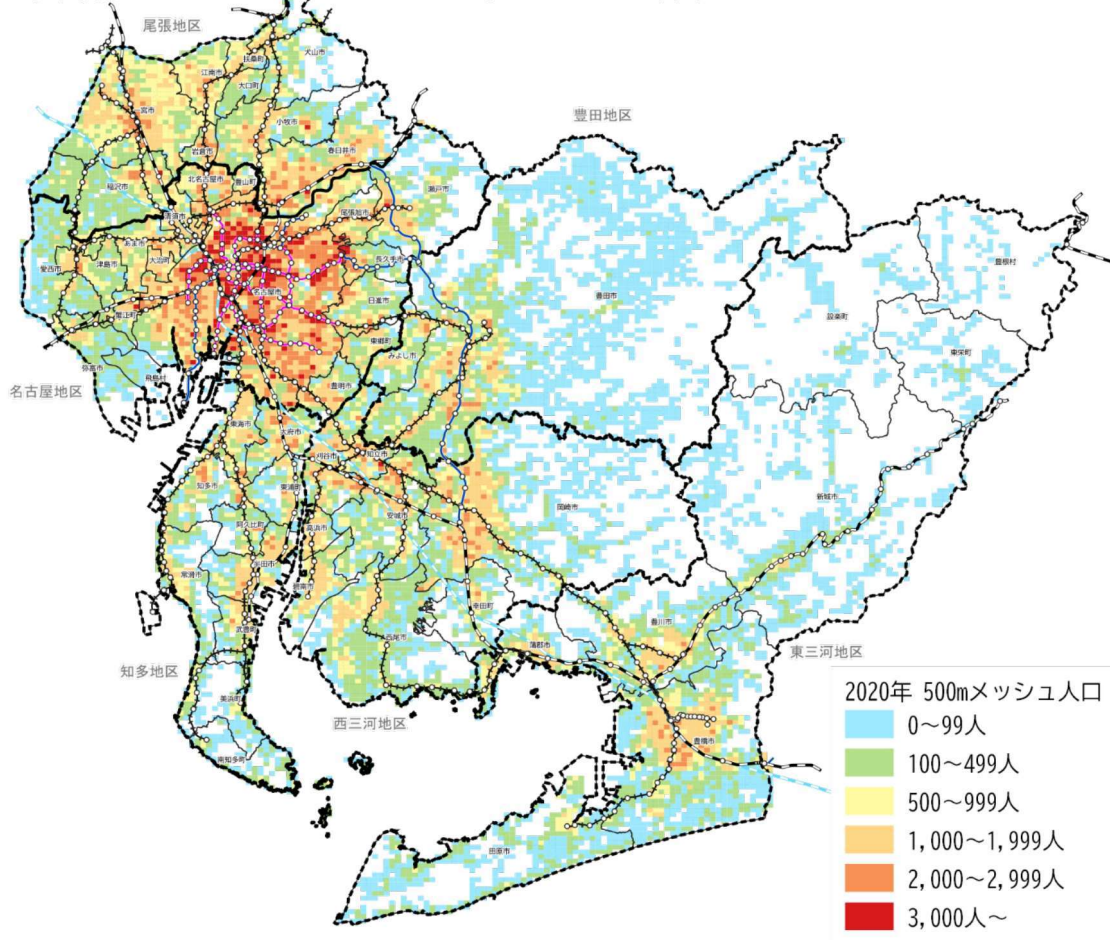


※2015年と2020年の人口は愛知県統計年鑑に合わせて不詳補充値を採用
 なお、不詳補充値とは、国勢調査の結果を利用する人の利便性向上のため、主要な集計項目(年齢層等)での「不詳」をあん分等によって補充したものをいう。

※増減率は2020年→2040年の変化率

出典：国勢調査、日本の地域別将来推計人口(2018年推計)(国立社会保障・人口問題研究所)

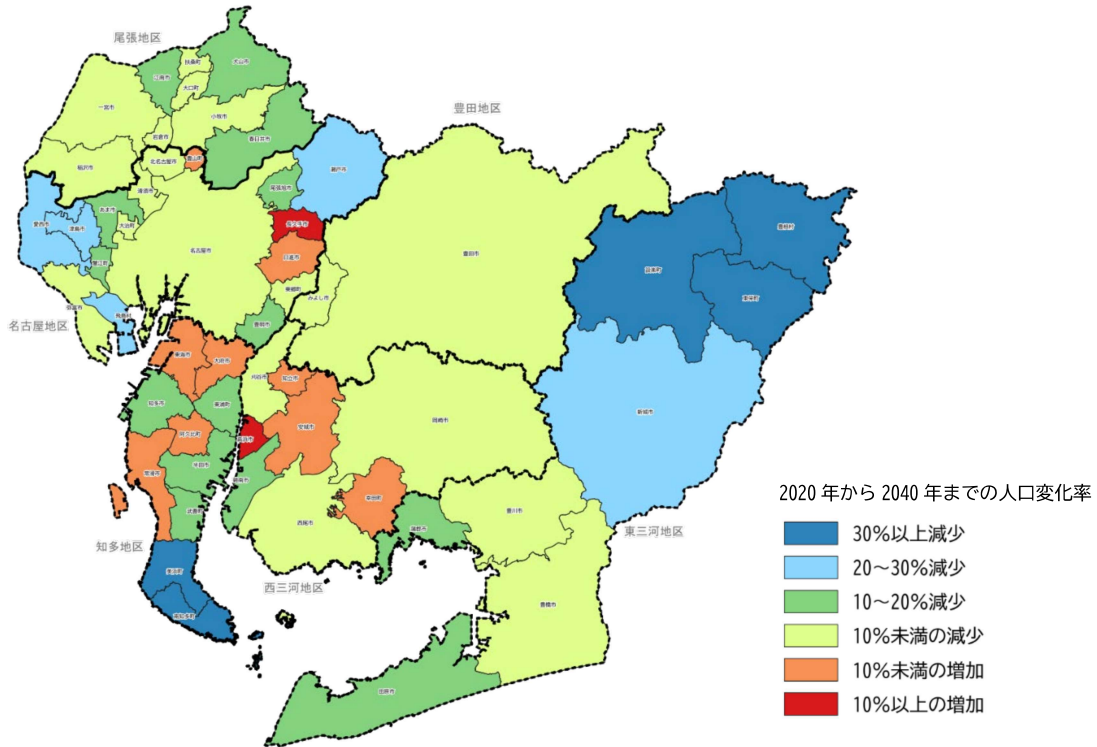
■2020年 国勢調査に基づく人口メッシュデータ(500mメッシュ単位)



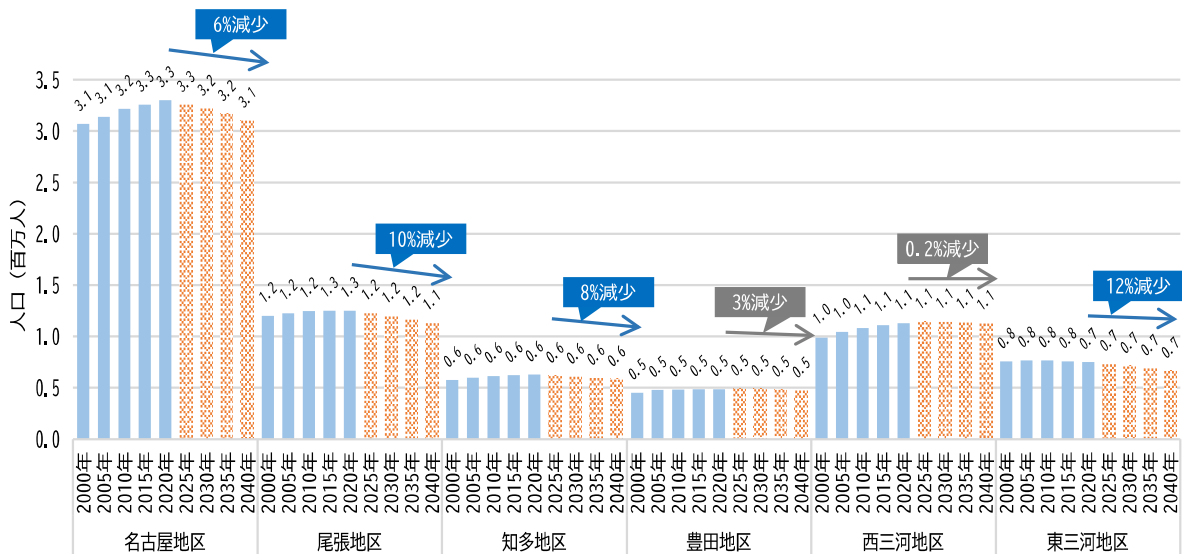
② 地区別・市町村別の人口推移

- 本県の人口は地区によらず、2025年以降減少することが予測されています。
- 市町村別では、長久手市や高浜市などの一部の市町を除いて人口は減少することが予測されています。
- 特に知多地区の南部や、東三河地域の北部で人口が著しく減少することが予測されています。

■市区町村別の将来人口の増減率（2020年→2040年の変化）



■地区別の人口の推移と将来予測値



※2015年と2020年の人口は愛知県統計年鑑に合わせて不詳補完値を採用

なお、不詳補完値とは、国勢調査の結果を利用する人の利便性向上のため、主要な集計項目（年齢層等）での「不詳」をあん分等によって補完したものをいう。

※増減率は2020年→2040年の変化率

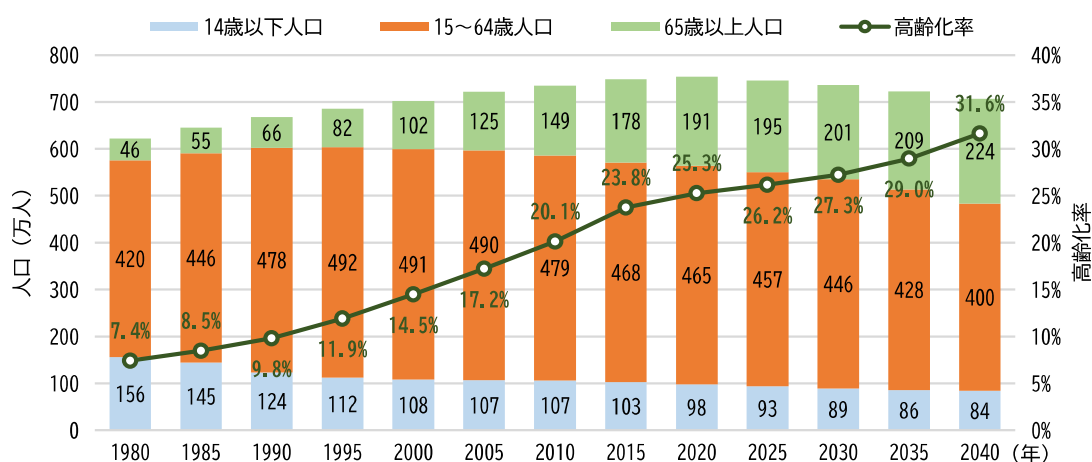
出典：国勢調査、日本の地域別将来推計人口（2018年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）

(2) 高齢化率の推移と将来予測

① 高齢化率の推移

- 高齢人口（65歳以上）は増加を続ける一方で、若年人口（14歳以下）、生産年齢人口（15～64歳）は20年以上前から減少が続いています。
- 高齢化率は1980年から増加を続けており、2040年には約32%となることが予測されています。
- 地区別の高齢化率の推移についても、県全体と同様の動きをしており、比較的高齢化率が低い豊田地区・西三河地区でも、高齢化率が30%近くになることが予測されています。

■愛知県の年齢別人口と高齢化率の推移と将来予測

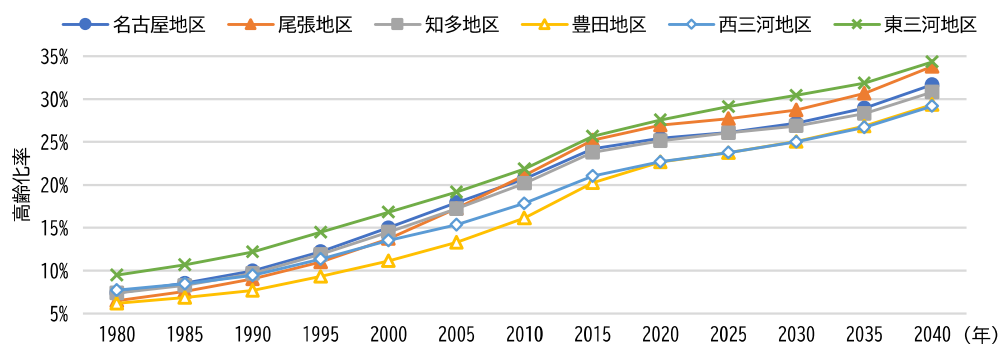


※2015年と2020年の人口は愛知県統計年鑑に合わせて不詳補完値を採用
 なお、不詳補完値とは、国勢調査の結果を利用する人の利便性向上のため、主要な集計項目（年齢層等）での「不詳」をあん分等によって補完したものをいう。

※増減率は2020年→2040年の変化率

出典：国勢調査、日本の地域別将来推計人口（2018年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）

■地区別の高齢化率の推移と将来予測



	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040
名古屋地区	7.4%	8.5%	10.0%	12.2%	15.0%	17.9%	20.7%	24.2%	25.4%	26.1%	27.2%	29.0%	31.7%
尾張地区	6.5%	7.6%	9.0%	11.0%	13.7%	17.2%	21.1%	25.2%	27.0%	27.7%	28.7%	30.7%	33.8%
知多地区	7.4%	8.3%	9.7%	11.9%	14.5%	17.2%	20.2%	23.8%	25.2%	26.0%	26.9%	28.3%	30.8%
豊田地区	6.2%	6.9%	7.7%	9.3%	11.1%	13.3%	16.1%	20.2%	22.7%	23.7%	25.0%	26.9%	29.4%
西三河地区	7.7%	8.5%	9.5%	11.3%	13.5%	15.4%	17.8%	21.0%	22.7%	23.8%	25.0%	26.7%	29.2%
東三河地区	9.5%	10.7%	12.2%	14.5%	16.8%	19.2%	21.8%	25.7%	27.6%	29.1%	30.4%	31.9%	34.3%

※2015年と2020年の人口は愛知県統計年鑑に合わせて不詳補完値を採用
 なお、不詳補完値とは、国勢調査の結果を利用する人の利便性向上のため、主要な集計項目（年齢層等）での「不詳」をあん分等によって補完したものをいう。

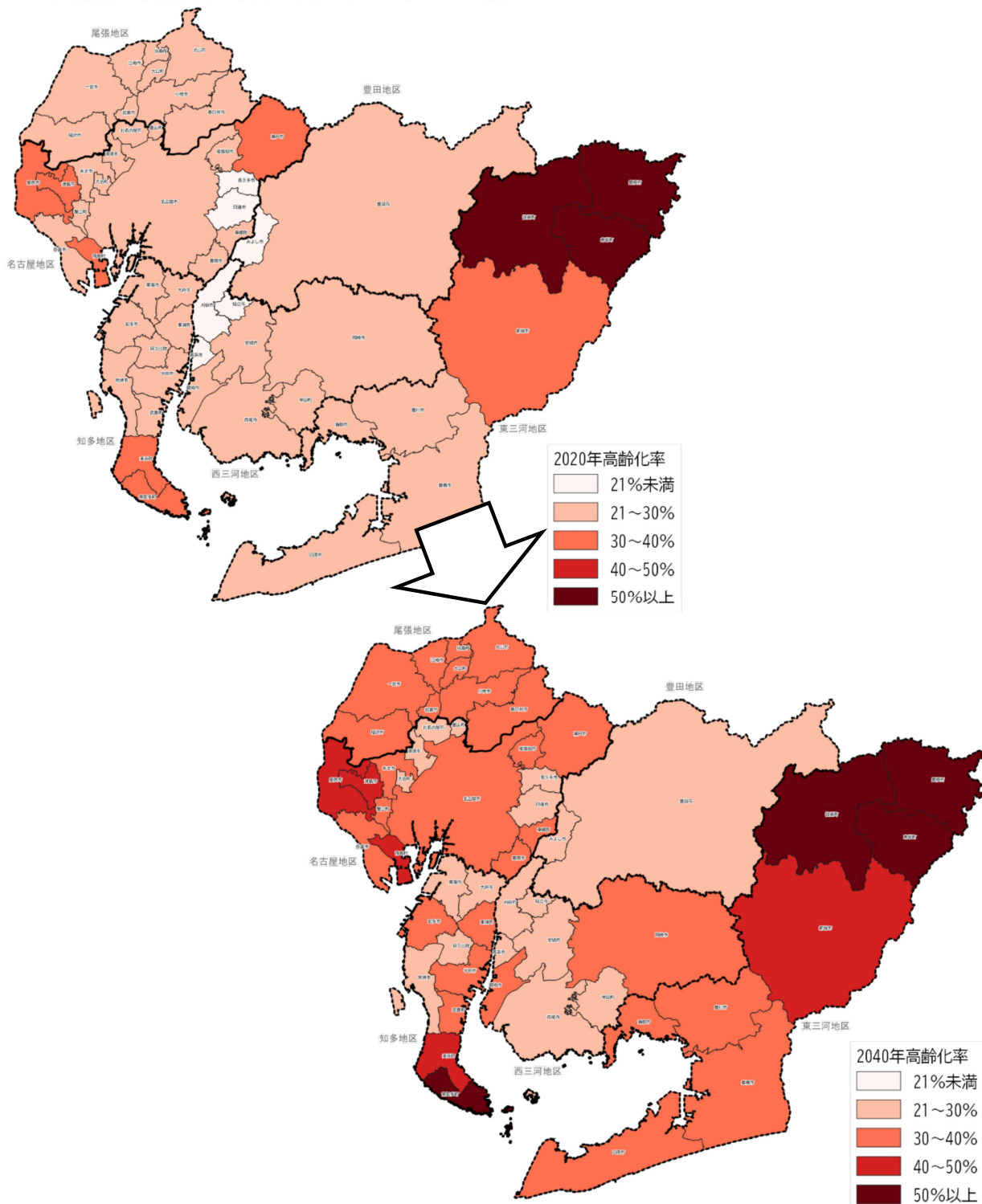
※増減率は2020年→2040年の変化率

出典：国勢調査、日本の地域別将来推計人口（2018年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）

② 市町村別の現況・将来の高齢化率の変化

- 市町村別に高齢化率の状況を整理すると、2020年時点（上図）で東三河地区の北設楽郡の町村で高齢化率 50%以上となっており、また長久手市から高浜市までの南北に連なる 6 市を除く全ての市で、WHO（世界保健機関）の定める基準による超高齢社会（高齢化率 21%以上）となっています。
- 2040年時点では県内全ての市町村で超高齢社会となり、名古屋圏を中心に高齢化率 30%以上となります。

■市町村別の高齢化率の将来の変化（2020年、2040年）

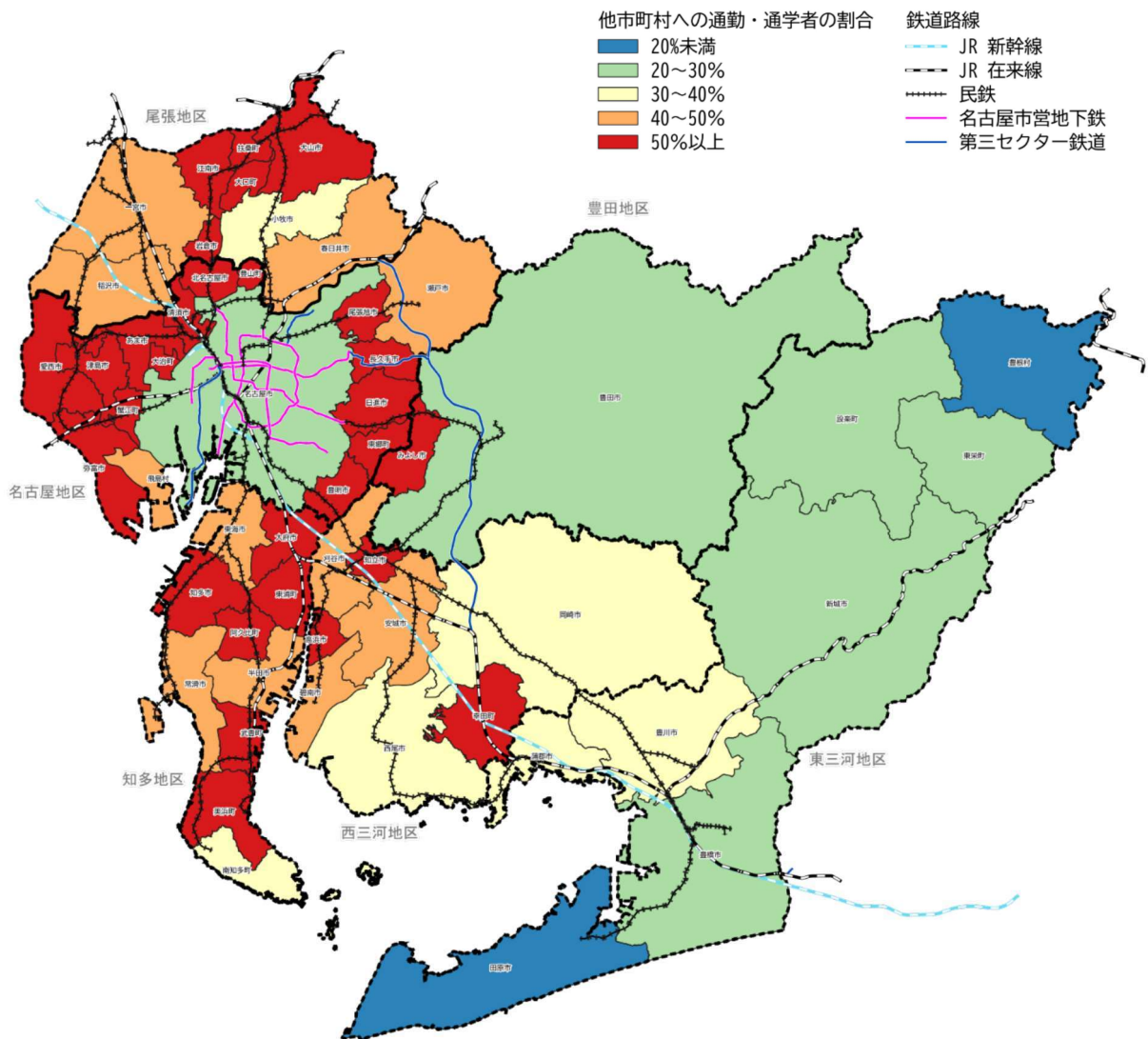


(3) 他市町村への通勤・通学の状況

① 他市町村へ通勤・通学する人の占める割合

- 2020年の国勢調査における「通勤・通学流動」から、通勤・通学時における他市町村への移動の状況を整理します。
- 通勤・通学時に他市町村へ跨る移動の割合を見ると、名古屋市周辺の市町村について他市町村への移動割合が40～50%以上となっています。
- また、隣接市に工場等の通勤先が多い幸田町は他市町村への移動割合が50%以上となっています。

■ 自市町村以外の他市町村へ通勤・通学する人の占める割合（2020年）

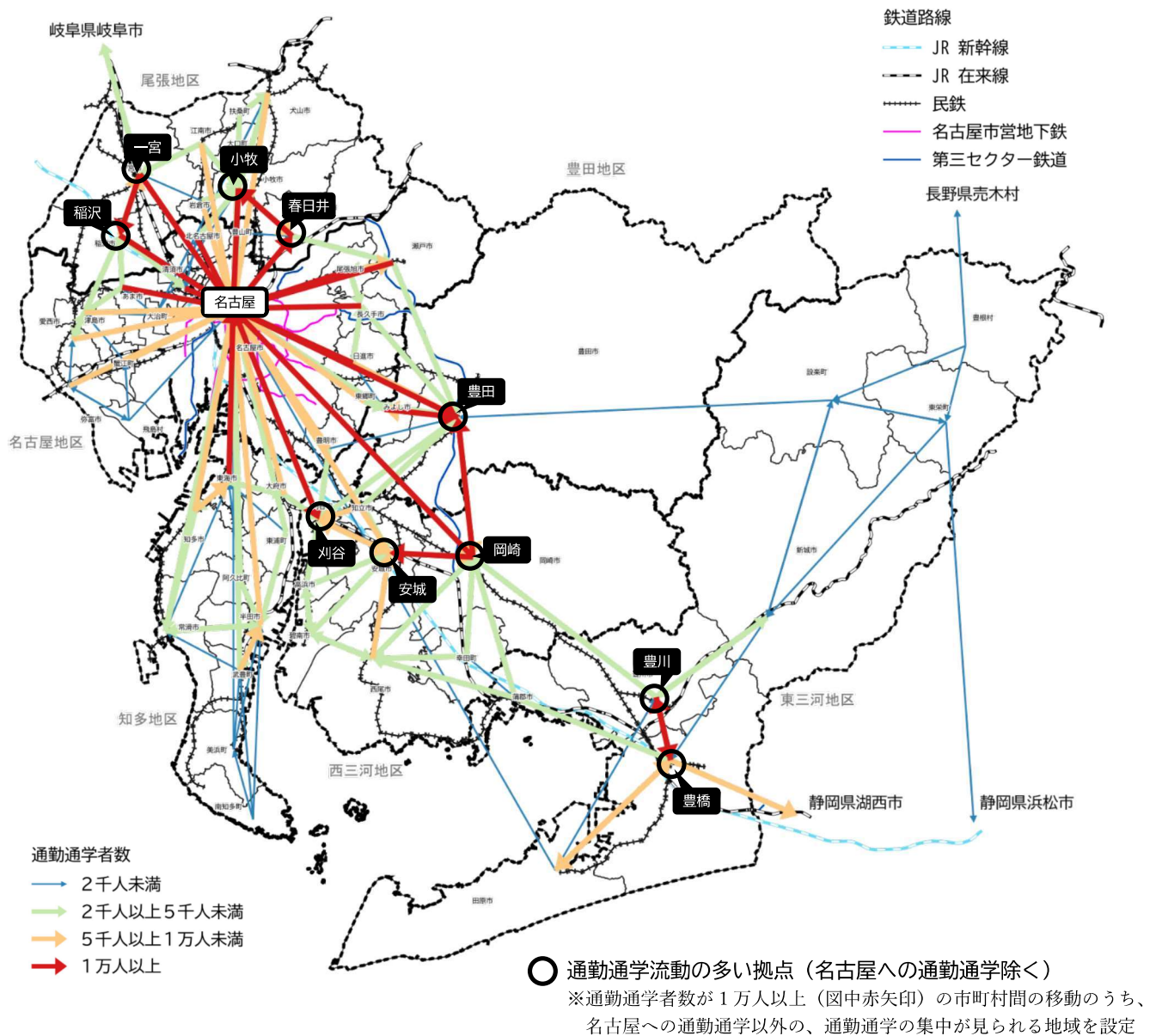


出典：2020年国勢調査、国土数値情報ダウンロードサービスを元に作成

② 市町村別の常住地以外の市町村への通勤・通学者数

- 常住地以外の他市町村への移動先を見ると、名古屋市に移動する動きが大半となっています。
- 他市町村への移動先について、名古屋市以外にも、豊田市、刈谷市、豊橋市など、通勤・通学が集中する地域が見られます。

■市町村別の常住地以外の市町村への通勤・通学者数（2020年）（上位3位まで）



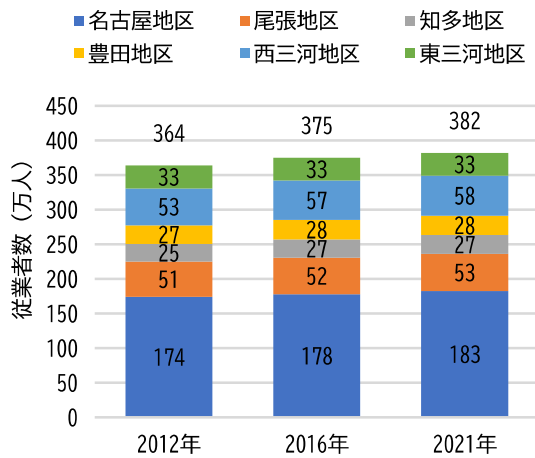
出典：2020年国勢調査、国土数値情報ダウンロードサービスを元に作成

(4) 産業・経済活動

① 産業・経済活動の推移

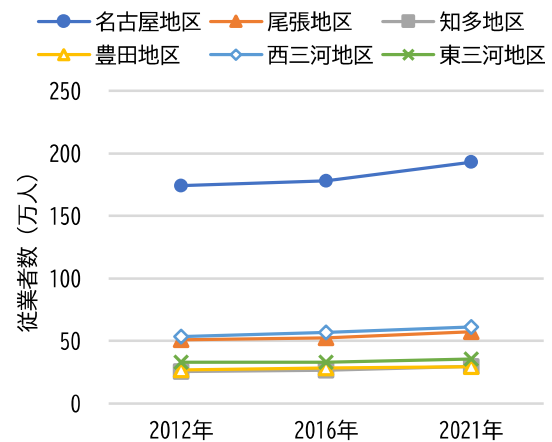
- 県内の従業者数は2012年以降増加を続けており、2021年には約382万人となっています。
- 地区別の従業者数は特に名古屋地区で大きく増加しています。
- 県内の地区別総生産は2012年度から2015年度まで増加を続け、2016年度から2018年度まで横ばいで推移していましたが、2019年度に米中貿易摩擦による世界経済減速の影響等により減少に転じ、2020年度もコロナ禍の影響などにより減少が続きました。

■従業者数の推移



※公務を除く

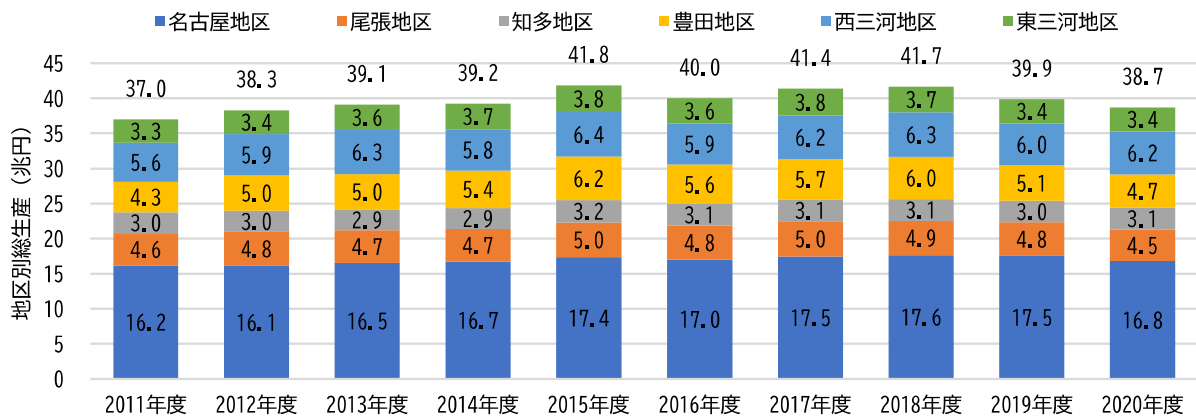
出典：総務省・経済産業省「経済センサス 活動調査」
(2012年、2016年、2021年の調査より加工)



※公務を除く

出典：総務省・経済産業省「経済センサス 活動調査」
(2012年、2016年、2021年の調査より加工)

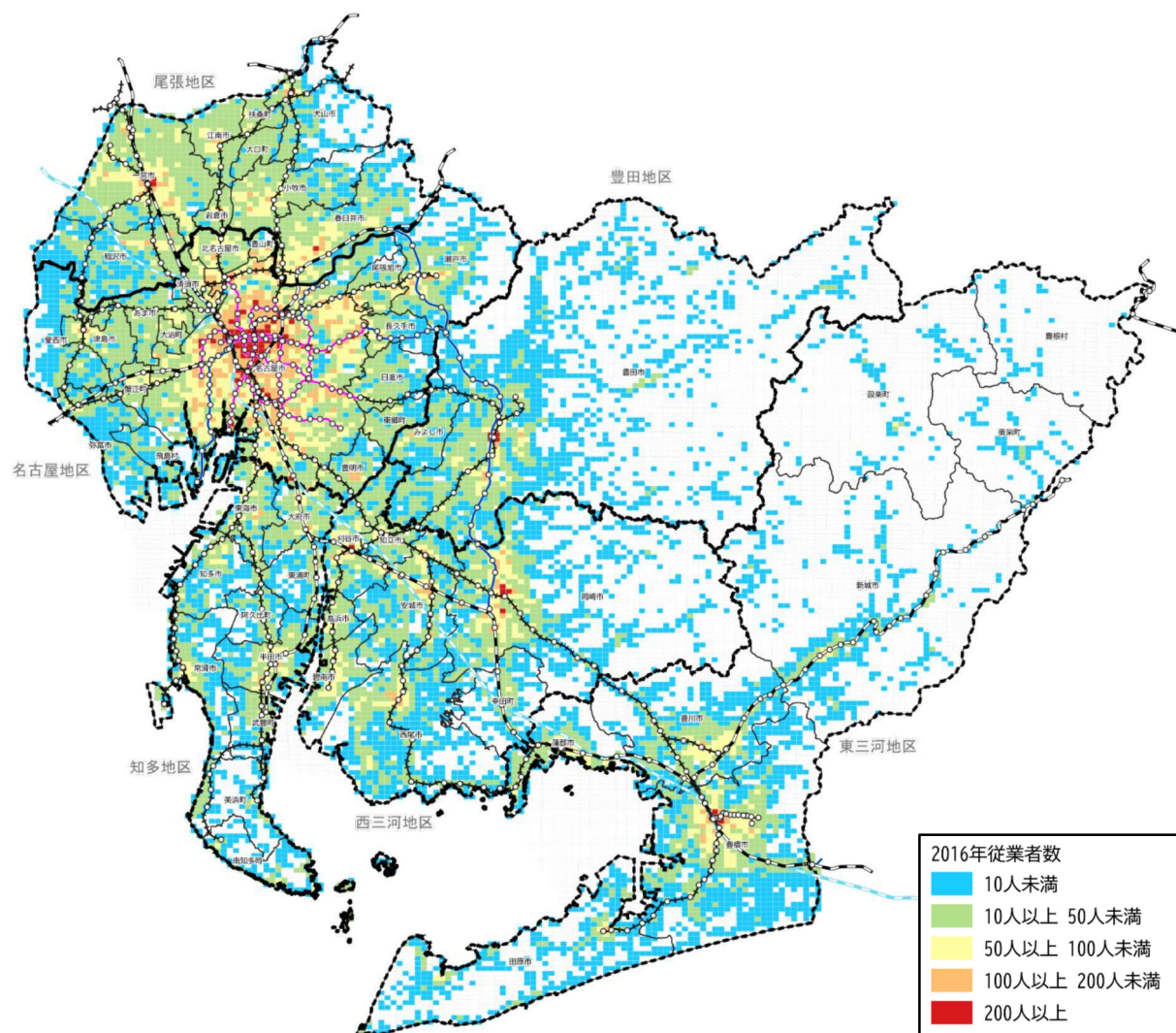
■地区別総生産の推移



出典：2020年度あいちの市町村民経済計算

- 従業者数は、名古屋市や豊橋市の商業施設等が密集する場所や、豊田市や岡崎市などの大規模な工場等がある場所を中心に分布しています。
- 従業者数が多い場所の多くが、鉄道駅に近接している場所となっていることから、鉄道は特に重要な通勤手段であるといえます。

■2016年従業者数の分布（500mメッシュ）



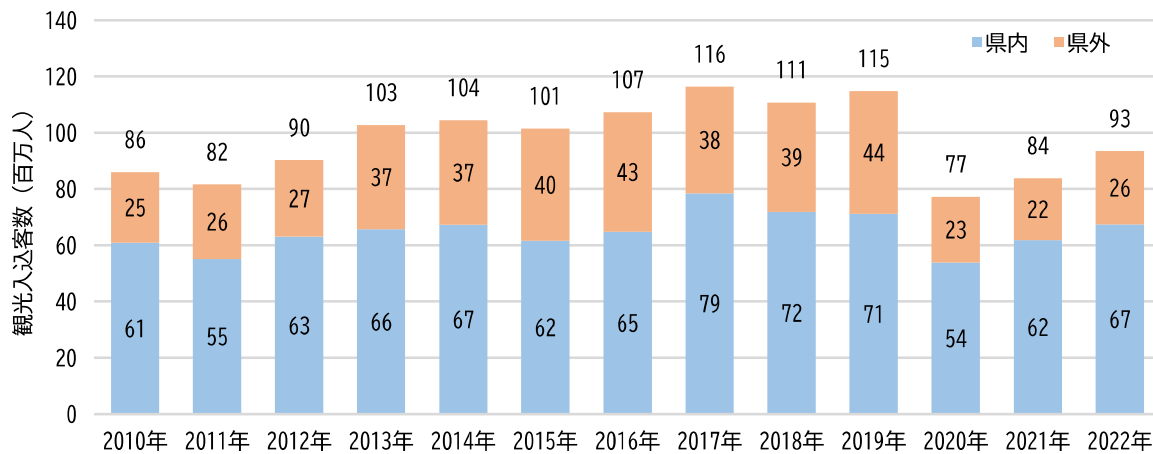
出典：総務省・経済産業省「経済センサス 活動調査」（2016年調査より加工）

(5) 観光・交流

① 観光入込客数の推移

- 観光入込客数は2010年から2019年にかけて増加傾向にありましたが、コロナ禍の影響により2020年に大きく減少し、以降回復傾向にあるものの、2019年の水準には戻っていません。
- 観光入込客数のうち県内からの観光客が全体の7～8割程度を占めています。
- 利用者数の多い観光施設では、刈谷ハイウェイオアシスや中部国際空港、NEOPASA岡崎などの交通の要衝にあたる施設の利用が最も多くなっています。
- コロナ禍の影響もあり、にっぽんど真ん中祭りなどのイベントの来訪者は特に減少しています。
- 自動車で来訪しやすい刈谷ハイウェイオアシスやNEOPASA岡崎は他の観光施設等に比べて相対的に順位が上がったものと思われます。

■観光入込客数の推移



出典：愛知県観光入込客統計

■県内の観光施設の利用者数の上位10位

□2019年				□2022年				
順位	市町村	観光資源名	利用者数(人)	順位	市町村	観光資源名	利用者数(人)	増減数(人)
1	常滑市	中部国際空港来場者	15,614,000	2	常滑市	中部国際空港来場者	7,022,000	▲ 5,762,000
2	刈谷市	刈谷ハイウェイオアシス	8,595,000	1	刈谷市	刈谷ハイウェイオアシス	7,151,000	▲ 1,333,000
3	名古屋市	熱田神宮	7,405,049	3	岡崎市	NEOPASA岡崎	5,375,922	▲ 635,893
4	岡崎市	NEOPASA岡崎	6,216,084	4	豊川市	豊川稲荷	4,928,846	▲ 184,504
5	豊川市	豊川稲荷	5,187,014	5	名古屋市	熱田神宮	4,720,911	▲ 2,385,831
6	名古屋市	ナゴヤドーム	5,179,563	6	名古屋市	バンテリンドームナゴヤ	3,032,421	▲ 1,350,108
7	蒲郡市	ラグーナテンボス	2,558,420	7	名古屋市	東山動植物園	2,251,240	▲ 270,430
8	名古屋市	東山動植物園	2,514,391	8	豊橋市	道の駅とよはし	2,236,256	-
9	名古屋市	にっぽんど真ん中祭り	2,357,000	9	名古屋市	名古屋港水族館	1,844,811	▲ 245,054
10	名古屋市	名古屋城	2,205,544	10	長久手市	愛・地球博記念公園	1,493,300	▲ 161,900

12位 14位 15位 20位以下

※2019年の「ナゴヤドーム」は、2022年より「バンテリンドームナゴヤ」に名称変更

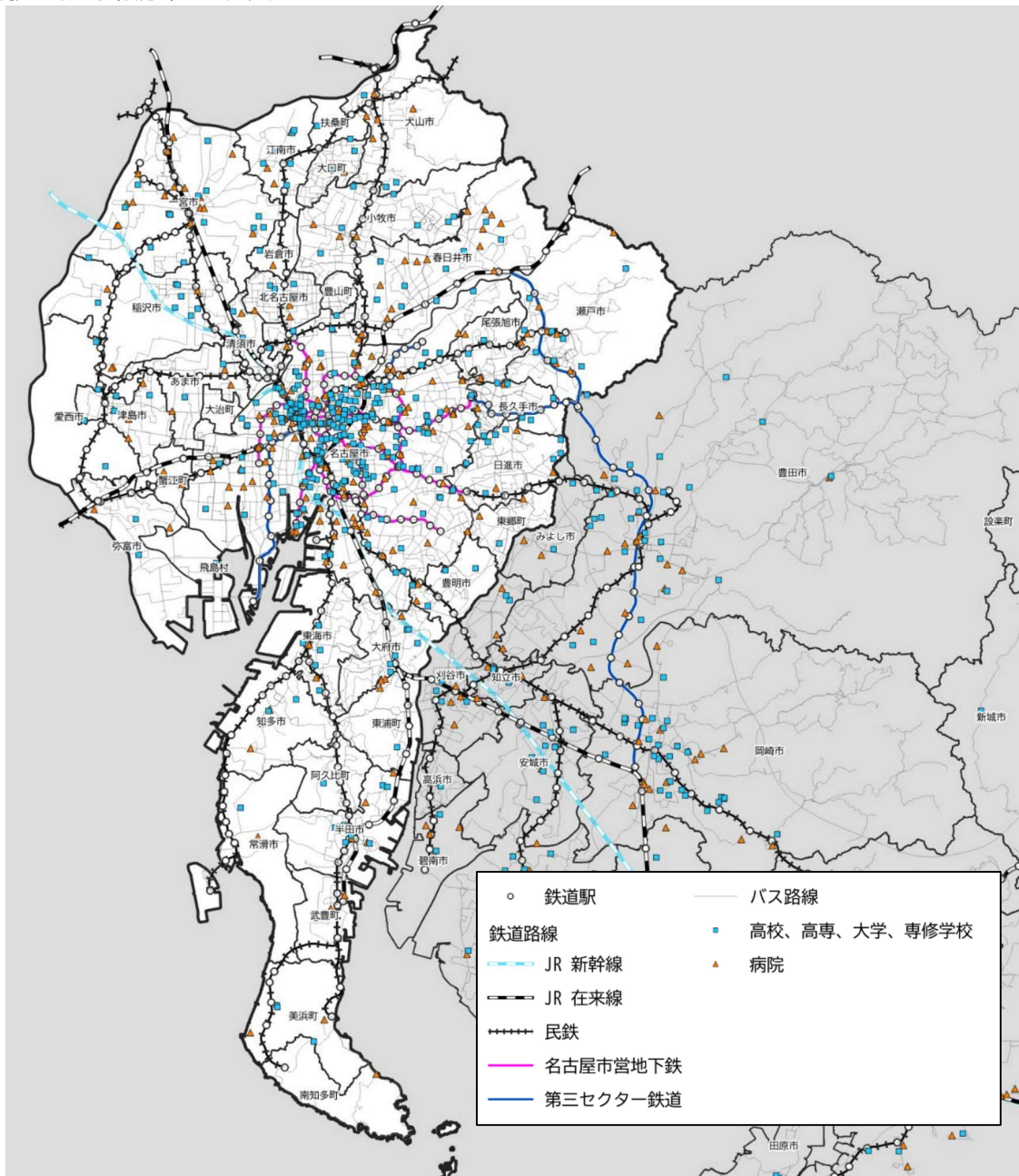
出典：観光レクリエーション利用者統計参考資料（2019年、2022年）

(6) 学校、病院の分布

① 尾張地域

- 尾張地域において学校（高校、高専、大学、専修学校）、病院（病床数 20 床以上）は、名古屋市中心に立地しており、春日井市、日進市、尾張旭市などの一部の地域を除き、鉄道駅周辺に立地しています。駅から離れた学校、病院についても、路線バス、コミュニティバス等によるアクセスが確保されています。
- 鉄道沿線に人口、産業が集積し、名古屋地区とのつながりが充実しており、郊外地域間を路線バスがつなぐことで、市町村間交通が形成されています。

■尾張地域の施設分布と公共交通ネットワーク



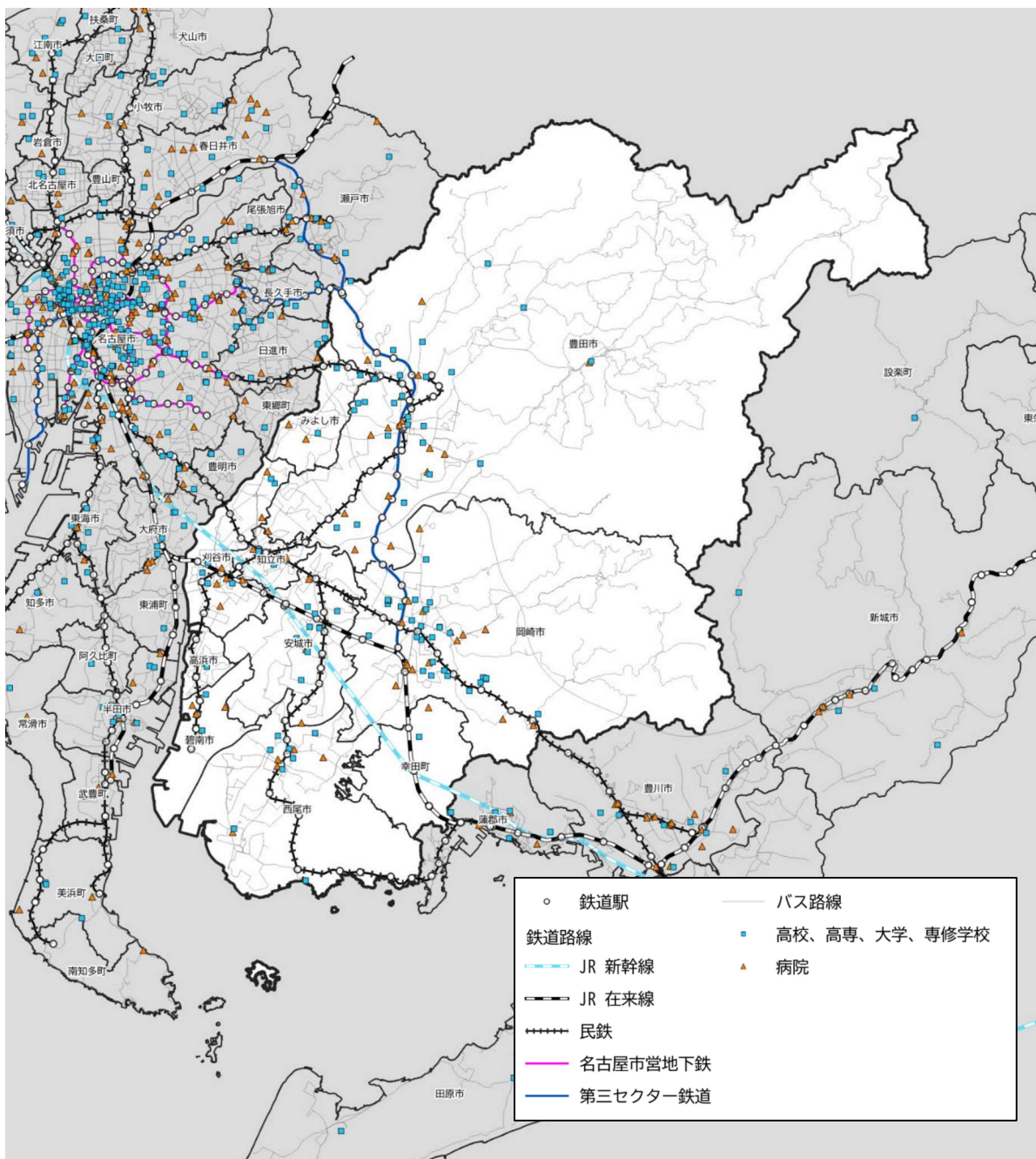
※鉄道の駅及び路線については 2022 年 12 月時点のデータ、バス路線については 2022 年 8 月時点のデータ、高校、高専、大学、専修学校については 2021 年のデータ、病院については 2020 年のデータを元に作成

出典：国土数値情報ダウンロードサービスを元に作成

② 西三河地域

- 西三河地域において学校、病院は、東岡崎駅、豊田市駅・新豊田駅等の主要駅周辺に多く立地しています。
- 豊田市の山間部は、学校、病院ともに立地が少なく、移動手段の確保が重要となっています。
- 岡崎市、刈谷市、豊田市、安城市、知立市等の中心部と名古屋市を結ぶ交通が充実している一方で、西三河北部・東部の山間部の移動手段が十分でない状況にあります。

■西三河地域の施設分布と公共交通ネットワーク



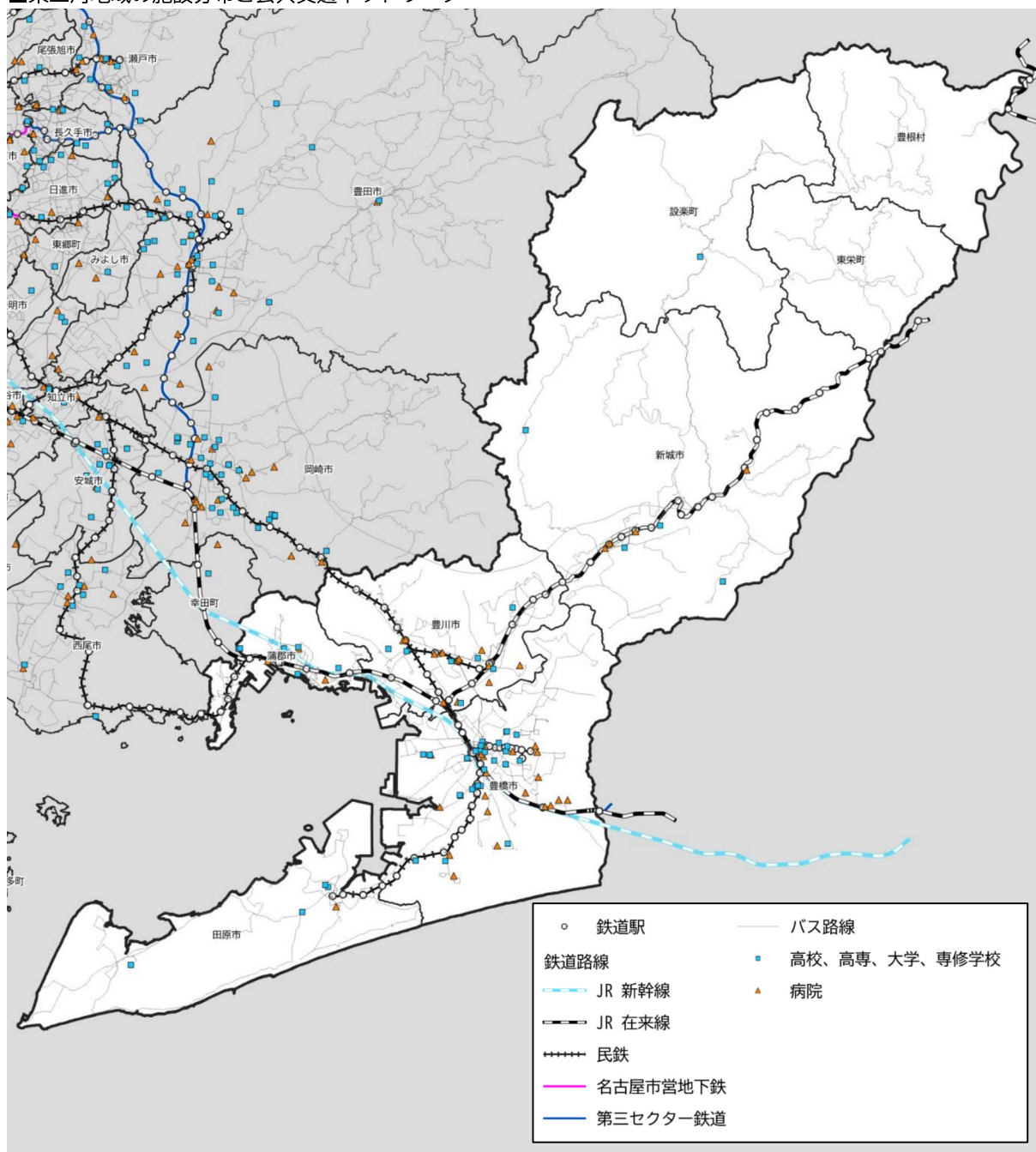
※鉄道の駅及び路線については2022年12月時点のデータ、バス路線については2022年8月時点のデータ、高校、高専、大学、専修学校については2021年のデータ、病院については2020年のデータを元に作成

出典：国土数値情報ダウンロードサービスを元に作成

③ 東三河地域

- 東三河地域において地域の中心地である豊橋駅周辺と、複数の鉄道路線のある豊川市内の駅周辺に学校、病院等が集中していますが、新城市以北の各町村や田原市では、学校や病院の立地が少数となっています。
- これらの市町村では、通学、通院等に市町村境界を越えるなど長距離移動が必要な状況となっています。
- 名古屋市・静岡県に繋がる鉄道軸と南北の鉄道軸が交差する豊橋市を中心とした公共交通ネットワークとなっています。

■東三河地域の施設分布と公共交通ネットワーク



※鉄道の駅及び路線については2022年12月時点のデータ、バス路線については2022年8月時点のデータ、高校、高専、大学、専修学校については2021年のデータ、病院については2020年のデータを元に作成

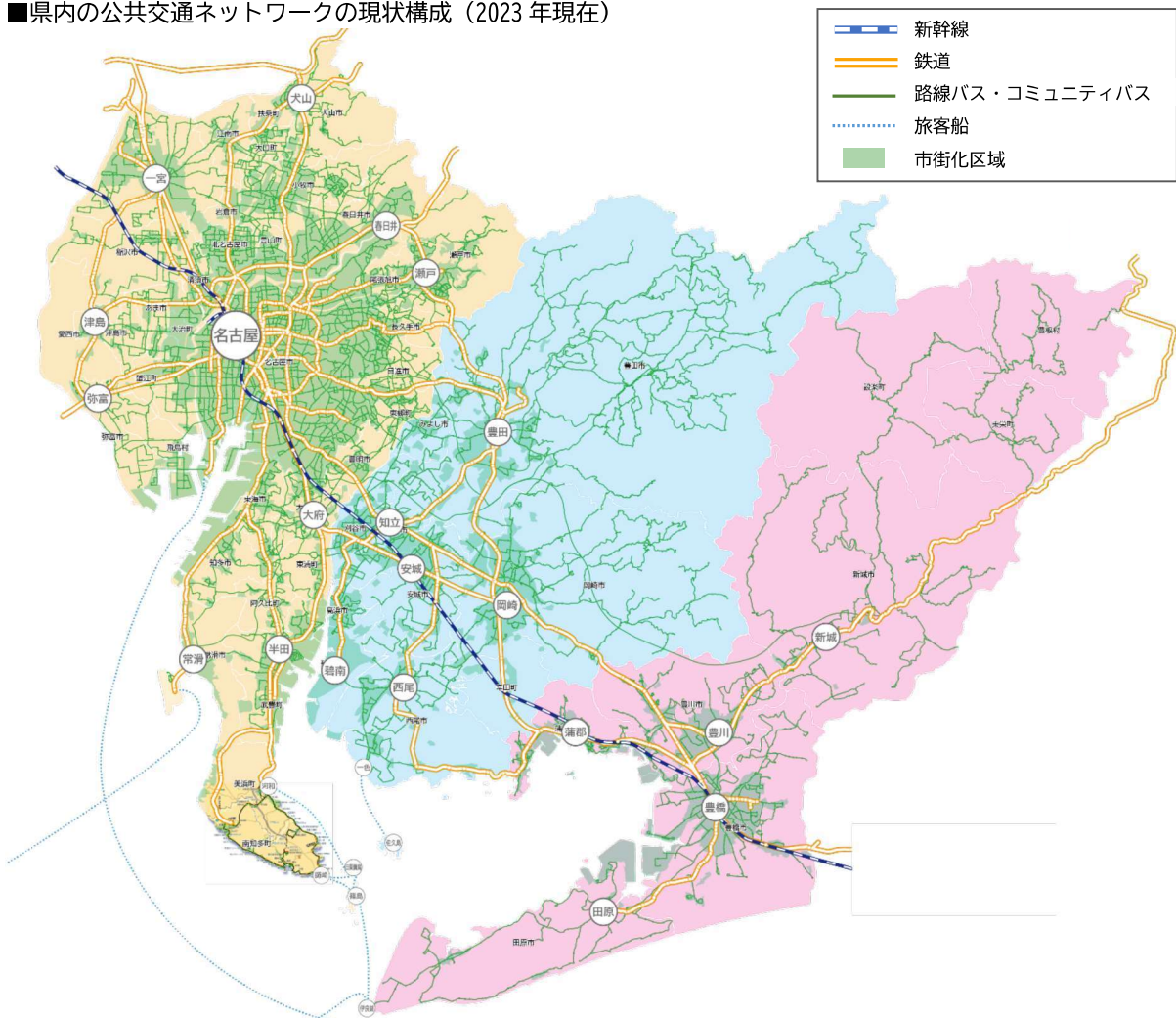
出典：国土数値情報ダウンロードサービスを元に作成

2 公共交通特性の整理

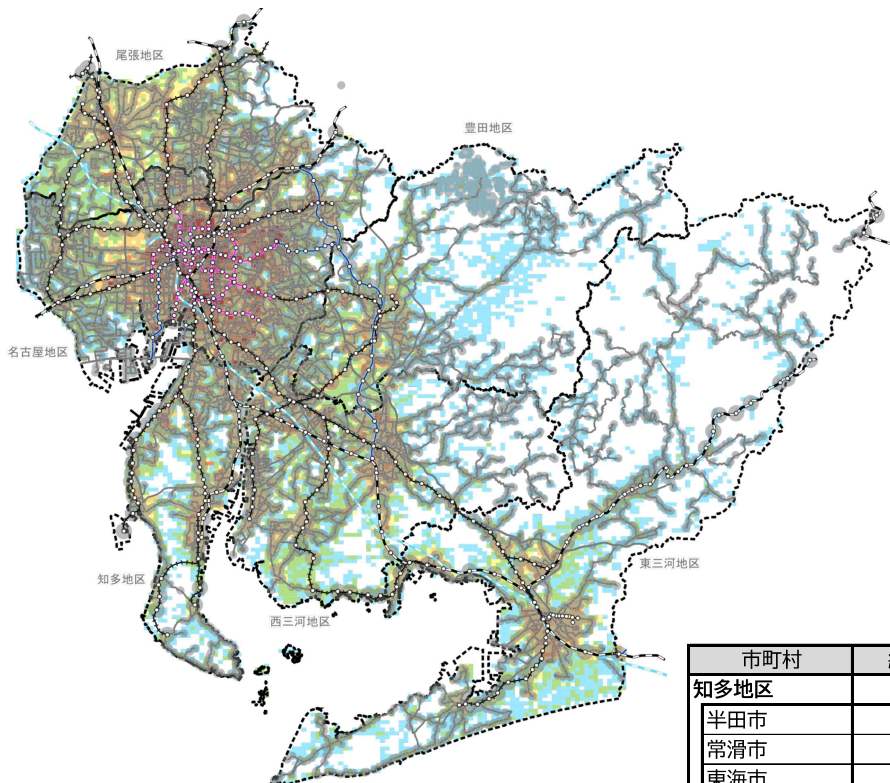
(1) 愛知県の公共交通ネットワーク

- 愛知県では尾張地域、西三河地域、東三河地域を縦貫し、県内外とつながる鉄道が整備され、公共交通の幹線軸を形成しています。
- 尾張地区、名古屋地区、知多地区からなる尾張地域では、名古屋駅を中心に放射状に鉄道が整備され、尾張地域内の移動のみならず他県や西三河地域、東三河地域への接続を担うネットワークが形成されるとともに、名古屋市内では鉄道、路線バス、タクシー等の交通機関が充実しています。
- 西三河地域、東三河地域では、豊橋駅、東岡崎駅・岡崎駅、豊田市駅・新豊田駅などの地域の拠点となる主要駅への市町村を跨る移動を、鉄道や市町村間交通としての路線バスが担っています。
- 多くの市町村では、路線バス、コミュニティバス、タクシー等が市町村内交通として県民の暮らしを支えています。
- 離島部については、西尾市、南知多町の市町村内交通として離島への定期便が運航するほか、市町村間交通として美浜町の河和港から離島を經由し田原市の伊良湖港を結ぶ高速船が運航しており、島民の暮らしを支えるとともに観光等に利用されています。

■県内の公共交通ネットワークの現状構成（2023年現在）



■公共交通の人口カバー率（2022年）



■人口カバー率の算定

【使用データ】
 (人口) 2020年度国勢調査
 (駅・バス停) 国土交通省 国土数値
 情報ダウンロードサイト
 ※2022年度時点

【駅・バス停勢力圏設定】

・駅・バス停の勢力圏については、各市町村の計画等において個別に設定しているが、本計画においては統一的な基準として、下記の駅・バス停勢力圏の設定としている。

- 駅 半径 1km
- バス停 半径 500m

愛知県	総人口	カバー人口	カバー率
県全域	7,542,415	7,046,204	93.4%

市町村	総人口	カバー人口	カバー率
名古屋地区	3,302,576	3,216,530	97.4%
名古屋市	2,332,176	2,304,875	98.8%
名古屋市以外	970,400	905,345	93.3%
瀬戸市	127,792	124,140	97.1%
津島市	60,942	59,381	97.4%
尾張旭市	83,144	83,144	100.0%
豊明市	69,295	69,295	100.0%
日進市	91,520	91,520	100.0%
愛西市	60,829	60,829	100.0%
清須市	67,352	66,620	98.9%
北名古屋市	86,385	86,335	99.9%
弥富市	43,025	40,301	93.7%
あま市	86,126	55,574	64.5%
長久手市	60,162	59,598	99.1%
東郷町	43,903	42,827	97.5%
豊山町	15,613	15,404	98.7%
大治町	32,399	16,046	49.5%
蟹江町	37,338	29,896	80.1%
飛鳥村	4,575	4,435	96.9%

市町村	総人口	カバー人口	カバー率
尾張地区	1,250,102	1,150,412	92.0%
一宮市	380,073	343,403	90.4%
春日井市	308,681	302,401	98.0%
犬山市	73,090	71,029	97.2%
江南市	98,255	78,292	79.7%
小牧市	148,831	147,865	99.4%
稲沢市	134,751	113,593	84.3%
岩倉市	47,983	43,190	90.0%
大口町	24,305	24,143	99.3%
扶桑町	34,133	26,495	77.6%

市町村	総人口	カバー人口	カバー率
知多地区	628,495	578,092	92.0%
半田市	117,884	113,037	95.9%
常滑市	58,710	42,771	72.9%
東海市	113,787	111,220	97.7%
大府市	93,123	93,123	100.0%
知多市	84,364	80,915	95.9%
阿久比町	28,383	18,873	66.5%
東浦町	49,596	48,524	97.8%
南知多町	16,617	11,592	69.8%
美浜町	22,496	16,588	73.7%
武豊町	43,535	39,853	91.5%

市町村	総人口	カバー人口	カバー率
豊田地区	484,282	429,576	88.7%
豊田市	422,330	371,552	88.0%
みよし市	61,952	58,023	93.7%

市町村	総人口	カバー人口	カバー率
西三河地区	1,128,730	1,034,310	91.6%
岡崎市	384,654	355,870	92.5%
碧南市	72,458	72,458	100.0%
刈谷市	153,834	148,244	96.4%
安城市	187,990	175,330	93.3%
西尾市	169,046	134,354	79.5%
知立市	72,193	71,700	99.3%
高浜市	46,106	45,775	99.3%
幸田町	42,449	30,460	71.8%

市町村	総人口	カバー人口	カバー率
東三河地区	748,230	637,284	85.2%
北部	52,751	47,660	90.3%
新城市	44,355	40,843	92.1%
設楽町	4,437	3,291	74.2%
東栄町	2,942	2,599	88.3%
豊根村	1,017	927	91.2%
南部	695,479	589,623	84.8%
豊橋市	371,920	323,270	86.9%
豊川市	184,661	150,459	81.5%
蒲郡市	79,538	64,745	81.4%
田原市	59,360	51,149	86.2%